

第八十二回句会 俳句

【高点句】

- ☆身の丈に合ふ暮らしして夕端居 〈眞澄〉
- ☆読書の手いつしか垂れて蝉の声 〈眞澄〉
- ☆片蔭に誘ひて続く立ち話 〈美保〉
- ☆歩の遅き母に日傘を差しかけん 〈撫子〉

【各自一句】

- ・瓢亭の梅茶と粥と朝涼し 〈伸子〉
- ・日焼けしてくつきり残るマスク跡 〈眞澄〉
- ・逃げ足の素早き兄の水鉄砲 〈明美〉
- ・上り坂日焼の頬のなお赤く 〈安津子〉
- ・舗装路に数多の蚯蚓乾びたる 〈緑〉
- ・慰霊の日礎(いしじ)に語る黒日傘 〈美保〉
- ・七夕や画面の母に手を振って 〈青蛙〉
- ・一杯の麦茶の肝に染み渡り 〈撫子〉
- ・五臓への刺激気遣いジョッキ持つ 〈隆司〉
- ・書道部の拓本採りや新樹光 〈郁代〉
- ・山門の仁王の眼濃紫陽花 〈一馬〉
- ・暑いなあ父の真似してひとり言つ 〈哲雄〉
- ・孫の手を引く婆の手の日焼せり 〈莫院〉

*以上、40句(3句ずつ13名、1句が1名)より、選句は15名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句(今回は第2位が同点で3句)

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載/1名は掲載辞退)